

第7回「銀座NAGANO」整備推進会議

平成26年10月8日（水）14:30～

県庁第三応接室

（山口委員）

先程、試食したケーキは美味しかったが、ラベルを見ると多くの添加物が使われていた。今回、健康ということが一つの大きなテーマになっているので、全く使わないということは難しいかもしれないが、メインとして売り出すものについては、そういった配慮も必要ではないか。

また、商品に関するフィードバックを行うということなので、そういったことがどのように受け取られるのかといったこともフィードバックの要素として考えていくべきではないか。

（観光協会）

試食していただいたケーキは、今回特別限定商品として開発していただいたものであり、自信を持って打ち出す商品であるが、添加物についてはなるべく削減していただくよう、製造元に話をしたい。

（鎌田委員）

棚割の構成を見るとターゲットがよく見えない。商品は万遍なく並んでおり、見せ方もカッコよくて若者向きなんですけど、一方でこうしたアンテナショップの利用者の平均年齢は50歳を超えているので、そういったボリュームゾーンを対象とすると、あまりあっちこっちに並べるよりも、アイテム毎の陳列がいいような気がする。

長野に来るとどういった生活ができるのかといった、観光等に惹き付けることがこうしたショップの役割だと思っているので、商品の背景にある長野の風土をどうやってつなげていくのかといったことを、POPなりゾーンの打ち出しとかでもっと強烈に打ち出していく必要があるのではないかと。アイテム数からすると決して多い商品数ではないので、そういったことも可能ではないかと思う。

ネットやカタログ販売をこれからされると思うが、鍋物など全ての食材がセットになったもので数千円のもの売れ行きが高い。長野はそうした商品が作りやすいと思うので、商品がないものも、やはり1階ではないと難しいと思うので、その辺も

（観光協会）

店舗入口の両側の棚は、長野県の食生活をご紹介していく、それに銀座ですので、単な

る物産館にはしないということで、朝昼晩といった日常のシーンを見せていく、店舗の奥の方 に行くとも定番商品やかかせないものも並べていくといったこと。ゆくゆくは、ここでの日常のシーンのくくりを東京から長野に逆提案していくということも考えていきたい。

(春日委員)

注目商品の中の野菜や果物の中に有機なり減農薬という記載があるが、これに限定してしまうのか。というのも、長野県の農産物非常に高品質なものが多く、必ずしも有機減農薬ではなくても素晴らしいものがあり、それこそ日本で最高の品質のものも作られている中で、どういったところをターゲットとして取り扱っていくのかということはどうか。

(熊谷所長)

有機減農薬の野菜・果物に限定するという意味ではなく、こだわりの農業という意味である。日本一の品質のものもたくさんあるが、周りには日本有数の百貨店等もあるので、入れるか入れないかの判断はよく考えないといけないと思っている。まずはこだわりというものを打ち出していくことを考えている。

(玉村委員)

おいしい信州ふード（風土）とか、ジビエ研究会といった長野県が取り組んでいる活動をことをしっかり打ち出して行っていただきたい。

ここは情報発信拠点であり、商品が最大の情報を発信していくといったことではないか。プランナーがないといった課題は、未だに解決されていないと思う。

(中村委員)

今日の会議の開き方を見ても、商品関係と会議が別々であることを見てもどうか。組織を一本すべきである。今からでもまだ遅くはない。このままでは遅かれ早かれバラバラになってしまう。

(小山委員)

これまで何度か打合せをする中で、同じような問題点を感じていて、誰の意思に基づいて形作られていくかが見えない。様々な参加者がいて、それぞれの意見を拾い上げていくことにより、形がぼやけていくということがる。

商品選定においても、自らが集めたというよりも、出てきたものをどう並べるかということになってしまっている。

それに、棚割に対して商品のボリュームがどの程度になるのかが把握できていない状態であり、これは早急に改善していかなければいけない問題点である。

(溝畑委員)

長野県の売りは健康長寿であるが、食べるものばかりで、他の県との違いがよく見えな
い。OLがマッサージやネイルに多額の消費をしているデータがあるので、長野という
お年寄りが元気で、人生100年を元気に生きるというライフスタイルやカルチャーに
触れてみたいという欲求がある。

それにオープンの日はまだ御嶽山の噴火が収まっていない状況にあって、全国に長野
県の強いメッセージを打ち出していくことは、非常に重要な要素だと思う。そうすれば、
全てのメディアが取り上げる。

(羽田委員)

支援策の中に移住対策といったことがあるが、市町村との連携はとれているのか。市町
村は空き家対策といった調査にかなりの労力を使っているの、しっかりと連携を図って
いただきたい。

国もふるさと創世に力を入れ、支援制度も充実されるようなので、是非、そういったも
の活用しながら、やっていってほしい。

(熊谷所長)

これまでも市町村に参加いただいて移住セミナーを開催してきている。銀座NAGAN
Oでは、イベントスペースでの、イベントとからめた移住相談、4階コワーキングの連動
といった活用をしていただける。

(野原委員)

ある自治体が「ここに住んでみません課」という課を作って、担当者が最初の相談から
家の斡旋等まで全てを行うようにした。従来のやり方で移住者が増えていけばいいが、増
えていなければやり方がだめということ。そういったきめ細かな動きに落とし込まないと
いくら銀座で発信しても臨場感がない。

(中嶋委員)

コンセプトが明確ではない。エッジがきかせないとリピーターが育たない。

連動がとれていない。1、2階と4階の連携が図れていない。

また、ウェブから実売といった連携は図れているかは疑問。今は常識になっている。

(佐々木委員)

取扱商品を見ると松川村は1つの商品しかなく、提案型の限界かなと思う。ですので、
イベントをやるときも、こちらから指示しないと、これはというものが出てこないと思う。

例えば過日松本ほうきを取り扱った。最初はこの値段でなんか買う人がいるのかと思っ

ていたが、ほうきとしてではなく、インテリアとして飛ぶように売れた。人のアイデアはどこにあるかわからないので、イベントを契機として掘り起こしていく。

(今井委員)

商品提案に対して、どのくらいアプローチがあったのか。不安なのは、県民がどう思っているのか不安である。私でさえここにくると初めて聞くことばかりであり、ましてや一般県民の方は銀座にお店ができることしか知らない。

どうして提案した商品が採用されなかったのか、どうしてイベントができなかったのかという声を聞くにつれ、やはり一般県民への説明が不足しているのではないかと思う。

それから、大勢の人が来たら整理をどうするかというのも、しっかりやらないといけないと思う。

(観光協会)

商品提案をいただいた中で、全く採用になっていない会社は数社である。あとは、提案いただいた商品数を絞るなど、何らかの形で採用をさせていただいている。

(玉村委員)

私のところには、いまだにここに商品を出すにはどうしたらいいのかといった問い合わせがある。HPなどはお年寄りは見ないので、そういったいい商品がもれている。ワインにしても原産地呼称に絞るわけでもなく、ただエントリーしたものだけが並んでいる。なのでワイン協議会がこのリストを見てもバツソさんに飲ませるワインはないということで、わざわざ金賞受賞のワインを出してもらった。他の商品にもそういったことが起こっているのではないかと思う。

(溝畑委員)

行列の話があったが、私は寧ろ並ばせたほうが良いと思う。私もよく並ぶが、並ぶことは価値だと思っている。そのかわり、定期的にお茶を出すとか行列の最後尾までしっかりとケアすること。来ていただいた客は絶対に離さないといった姿勢が大切。

(寺澤代理)

商工会が関係する商品をだいたい選んでいただいたなと思っている。今後は、不足している商品、これまでは商工会が組織として取り組んできたものではないので、の選定についてご協力させていただけるかなと思っている。

それから常々、新商品の開発を行っているが、チャレンジコーナーでのテストマーケティングといった活用方法もあるようなので、今後につながっていくような取り組みもさせていただけるのではないかと思っている。

【議題2】

(中村委員)

オープニングのテープカットには、地元の代表は加えるべき。中央区長が来られないということであるが、長野県のテープカットなどといわれないように、地元の方をいれないとまずい。

(野池部長)

溝畑委員から提案のあった木曾・長野応援の関係については、このオープニングの中で検討をしていきたい。

(中村委員)

それをやれば5大紙が取材にくる。いまのままではこない。

(溝畑委員)

私が見ている朝のニュースのトップは御嶽山関係、視聴者のアクセスが一番多いのも御嶽山です。視聴者の声で多いのは、何か私たちにできることはないかということ。ボランティアをしたいと思っているとか、支援物資を出している人もいますので、まずはありがとうということから、ここから木曾を元気にしていくんだと、是非、検討をお願いしたい。

(玉村委員)

オープニングの時に、正面入り口には何を並べるのか。そこに木曾のものを並べればいい。りんごを並べるにしても木曾のりんごとか、すんき漬けとか、そばとか御嶽はくさいとか。

(野原委員)

すんき漬けはまさに発酵食品、まもなく収穫して漬け込みが始まるので、そういった作業の映像も流しながら、みんな元気でやっているんだと、それもストーリーではないか。